



札幌大学地域連携センターニューズレター

Sapporo University Regional Cooperation Center Newsletter



特別編

2023.8.23

地域連携センターが発行しているニューズレター、前刊に続き、6月に札幌大学みらい共創スクエアを会場に開催した「まちづくりフェスタ」の様子をキャリアデザインラボ（CDL）に所属する経営学専攻2年の山舘奈央子さんと甚野菜緒さんがレポートしてくれました。



美幌町がサツダイにやってくる！

美しい時を描くまち 美幌町



美幌町は、大正12年4月の調整施行後、令和5年4月に100周年を迎えます。調整施行100周年という大きな節目を町民全体で祝うとともに、伊保呂町の歴史を振り返り、先人たちの功績に感謝し、その思いを未来の「びほろ」を気づいていく次世代につなげていきます。現在の人口は19,000人余りです。

基幹産業の農林業は、網走川、美幌川の流れに沿って拓かれた美幌原野と、その豊かな実りによって町が栄え、道内有数の町として発展してきました。多くの清流が、合流して水量が豊富なところをアイヌ語で「ピ・ポロ=水多く・大いなる所」といい、これが転訛して「ビホロ」と名付けられました。美幌町には大小合わせて60本を数える美しい川が流れ、とりわけ美幌峠を源とする美幌川は「母なる川」として多くの恵をもたらしてきました。

美幌町HP



美幌町のゆるキャラ「ぎゅうたろう」がサツダイにやってきましたよ！

利き腕である左腕には美幌峠の形をした力こぶができており、お気に入りのマフラーの水色は美幌町に流れる川をイメージしている！



<サポート学生>

| | |
|---------|--------|
| 法学専攻4年 | 永井 晴華 |
| 法学専攻4年 | 今井 大空 |
| 法学専攻4年 | 五十嵐 朋香 |
| 経済学専攻2年 | 中嶋 しずく |
| 英語専攻1年 | 富田 里佳 |

美幌町と本学は令和4年8月に地域の活力と学生の学びを向上させる「エデュケーションプログラム(スケートボード指導者派遣)」と卒業後の進路選択の拡大や地方企業に対する理解促進を図る「美幌町の暮らしを感じるインターンシップ」の2つの取組を実施した縁から、本イベントにご協力をいただきました。当日はインターンシップに参加した学生3名を中心にサポートを行いながら、地域の方とコミュニケーションを図り、地域理解を深めました。美幌町からは生鮮食品(トマト、ジャガイモ)や加工品(おかず味噌など)などの地元特産品の販売を中心にフォトウェディング「B・wedding」の宣伝、チラシ・パンフレット・ポスターによる美幌町のPR活動などを行いました。美幌町からは「多くの方が訪れ、美幌町を知ってもらえることができました」との感想が寄せられ、改善点はあるものの、可能性を感じるそんな取組であったことが伺えました。



町で用意したハピを着用しながら美幌町のPR活動を行うとともにまちフェス会場への誘導を行いました！



美幌高校の学生が開発した調味料の販売も行いました！



サポート学生より

ブースは特に事前準備等はありませんでしたが、前日準備の際に美幌町の方から「自由にやって下さい」と言ってくれたことで、スタッフ一同緊張せずに活動できたと思います。また、懇親会では美幌町の方々、そして学生スタッフでお話してきたことで、当日はスムーズに業務に携わることができました。私たち学生スタッフは主にチラシ配りを担当させて頂きました。お声がけさせて頂いた際に「美幌町の特産品が買えるんですか！」と興味を示してくださる方や「美幌町の出身なんですよ！」「つい先日、美幌町に行ってきたばかりなんです！」とたくさん話しかけてくださる方もいらっしゃいました。特産品は無事完売することができ、美幌町を知るきっかけに私たち学生スタッフが少しでも貢献することができていれば嬉しい限りです。最後までとても楽しくお手伝いできた上に僅かながらではありますが美幌町のお力になることができ、貴重な時間を過ごすことができました。



プログラミング講座～ゲームを作ってみよう！～



本学が取り組むデータサイエンス教育の実践的学習を主な目的に、小学生対象のScratchを使ったプログラミング講座を実施しました。講師の中村啓太准教授には参加者の皆さんに大学の取組を知っていただく機会として、令和4年3月に包括連携協定を締結したむかわ町のキャラクター「恐竜ホリたん」を教材に使用し、楽しみながらも大学だからこその学びある内容を準備していただきました。加えて、サツドラHD株式会社と連携し、4月29日にサツドラ西岡札大前店イートインスペースにおいて実施したプログラミング講座参加者の「個々の能力にあった講座を提供してほしい」という要望から、今回は申込時点で「初心者スクール」と「経験者スクール」のレベル分けを行いました。これにより参加者の皆さんのさらなるスキルアップを図るとともに地域の方のニーズにあった講座を提供できたようでした。



サポート学生たちは当日の円滑なサポートに向け、事前に講習を受けました。小学生の皆さんに楽しんでもらえる方法をそれぞれが考える時間を持つことで、児童に対する教授法を学ぶとともにデータサイエンス教育に対する理解を深める機会となりました。

初心者スクール



【対象】
パソコン・マウス操作、プログラミング経験が全くない
【参加者】
15名(小学生8名、保護者7名)

<サポート学生>

経営学専攻2年 甚野 菜緒
地域共創学群1年 伊達 誠真
経済学専攻3年 中川 莉来



初心者スクールは三角形や四角形などの図形を作成していくことから始まり、徐々に難易度が上がっていくという流れでした。保護者の皆さんを含め、初めて触れる媒体の難易度に戸惑っている様子が見受けられましたが、全ての参加者が星形を作るという最終段階まで進むことができました。保護者の方からは「想像以上に楽しいイベントだった」「学生の対応がとてもよかった」「定期的に有料でもいいから実施してほしい」などの感想が寄せられ、とても充実した講座となったようでした。

経験者スクール



【対象】
パソコン・マウスの基本操作ができ、プログラミング経験がある
【参加者】
6名(小学生3名、保護者3名)

<サポート学生>

経営学専攻2年 甚野 菜緒
経済学専攻3年 鈴木 大晴
経済学専攻3年 吉田 佳穂



経験者スクールは初心者スクールから少し発展し、最終的にシューティングゲームを作成することが目標でした。経験者ということもあり、中には、ボランティア学生さえも知らない知識を持っている参加者がいて驚きました。保護者の方からは「子供たちがわからなそうにしているときにすぐに気づいてくれたり、新しいゲームを提案してくれてありがとうございました」「また機会があれば参加させてもらいます」などの感想が寄せられ、とても満足度の高い講座となったようでした。

サポート学生からのコメント

どちらのスクールも参加者の皆さんから「楽しかった。今日はお母さんとできなかったけど次は一緒にやりたい」「難しい所もあったが慣れたら楽しかった」と言ってくれました。講座の中では小学生の笑顔が見られ、サポートできてよかったと思います。

大学生になってからも人に何かを教える側になることは少なく、今回、プログラミング講座のサポートにあたることで、自分が教える側に立ち、感謝されることに感動しました。また、親子で協力し、教え合いながら取り組んでいる姿を見て微笑ましく思えました。今後も、プログラミング講座など実施することがありましたら、ぜひ、参加させていただきたいと思います。



想像よりもプログラミングに慣れていて驚きました。

最初は難しそうに取り組んでいましたが、一緒に考えたり、アドバイスすると喜んでくれているのがとてもうれしかったです。

札幌大学 中村 啓太 准教授

札幌大学での小学生を対象としたプログラミング体験イベントは2回目となります。前回の反省を生かして、キャラクターが移動する箇所をペンで表示することで図形を描画するプログラミングを追加しました。プログラミングはコツを掴むまでが大変ですが、事前講習に参加して頂いた学生の皆様、イベントに参加して頂いた皆様が自力でプログラムを作成できていましたので、講師として安堵しました。ただ、今回も反省点や課題が見つかりましたので、次回このようなイベントを実施する際には、より充実した内容で実施できるようにしたいと考えております。最後に、参加して頂いた皆様、ご協力頂いた皆様ありがとうございました。